ひろば

2004年4月
Ｎｏ173
発行
日立小田原地区
「ひろば」
編集委員会
TEL(気付)

「成果主義賃金制度」導入
評価面談スタート！

04年4月からいよいよ新しい処偶制度導入による評価が開始されました。

4月上旬から評価承認上長との面談が始まり、10月に目標管理チャレンジシートに記入した項目に沿って評価を決定する面談をしました。

評価面談にあたって苦心したこと

初めての評価面談を前にチャレンジシートにどのように自己評価するか、与えられた仕事の範囲でいかに成果につながるアピールをするかなど、自己採点はとても大変な作業でした。

面談を通じて思ったこと

面談で感じたことは評価は相対評価の傾向が強く、昇格させたい人、そのままの格付けの者、降格させたい人、と、あらかじめ決まっていて、評価面談のときに、いかにその処遇に当てはめるかが評価者の手腕であるとされるところ、つまり上長の成果になっているように思えました。

評価をめぐるバトル？

まさに「成果主義」とは〝評価するものと、評価されるもの〟とのサバイバルなゲームのように感じました。

賃上げ・定期昇給なし、の春闘を経て

こんな春闘は初めてでした。賃上げはおろか、年令に応じての定期昇給もないのです。

毎年春闘後は、４・５月の暫定払いとして賃上げ総当分の臨時給が支払れていました。今年は昇格者以外のかなりの方に「暫定払い」はありません。

いつもの、すこしだけの楽しみもないのです。

労働組合の春闘総括では「最大限の誠意と期待を込めた決断と受けとめる、組合員がもてる能力を１００％発揮し、生き生きと働くことができるものと確信する」のコメントにはちょっと引いてしまいました。

好況の電機産業、年間５ケ月の要求に及ばない、４．６５ケ月の獲得は昨年の４．３ケ月を上回ったが、賃金政策の一時金「年間５ヶ月」は確保してもらいたいものです。

新処遇制度で生活水準も維持できない

新しい処遇制度の下で昨年まで維持されていた定期昇給がゼロとなり40代以降は賃金が上がらないことにもなりそうです。

年功賃金制度で右肩上がりのカーブで一定水準が確保されていたため、住宅ローンや教育費等生涯の生活設計も成り立っていました。

成果主義賃金導入で賃金水準が切り下げられることにでもなれば 生活設計はなりたちません。

年齢制限なしの家族手当になりました。

従来の制度では子女の手当は１８歳までとなっていましたが、新処遇制度では、年齢制限は撤廃となりました。

大学生や専門生など修学中の子女も手当の対象となります。
(配偶者を含め４人目まで扶養親族１人につき月額１１０００円)

プロジェクトＸで「みどりの窓口」

「♪風のなかのスバル、砂のなかの銀河、みんな何処へ行った♪」のオープニングテーマ曲で始まるＮＨＫの人気番組、プロジェクトＸで、日本でと言うよりも、世界で初めて全国の座席予約オンラインシステムを立ち上げた「日立」と旧「国鉄」の技術者の寝食を忘れた、苦闘ぶりが当時の関係者を中心に、時代背景も含めて感動的に放映されました。

会社のイントラ（社内電子案内）でも放送予告し当時の関係者、すでに退職されたＯＢも含めてたくさんの方が見られたと思います。

「感慨深く見ました」と、ある先輩が感想を話していました。

ただ、この番組でいつも感じることですが、「江戸城は誰が築いた…、大田道灌」、「大阪城は…豊臣秀吉」的、で「同じようにダンボールで仮眠しながら苦労した多くの技術者・労働者が反映されていないことが残念です」と話していました。

「ひろば」へのアクセス増えています。

先日［ひろば］を届けていました。庭掃除をしていた奥さんが「ご苦労様です、いつも主人が読んでいます」と声をかけてくださいました。また配布中、カンパも頂きました、ありがたいことです。

玄関先で、職場の事で立ち話になることもしばしば、「このビラ、インターネットで見たよ」の声も、「いつも読ませてもらっているよ、お金はいいのかい」ＯＢの方、皆さんの声が励みです、「ひろば」一層頑張ります。

カンパ歓迎です。

「ひろば」ホームページアドレス
http://www.hitachikon.net/hiroba/

湘南の海

ツバメが飛翔する季節になりました。お宿をなさる家々はシャッターの開け閉め、玄関の掃除と大変です。「ひさしを貸して母屋とられる」の感じでしょうか。▼先日（旧）ＩＢＭ藤沢事業所（現）日立ＧＳＴ藤沢事業所を訪ねる機会がありました。ＩＢＭの技術力の高さに圧倒され、技術者の自由な雰囲気と、誇り高く、自信に満ちた態度にも感心してしまいました。ＨＤＤ部門を始め、建屋は日立が買い取ったそうですが、人材と技術力では「母屋とられる」の感じがしました。▼神社のケヤキの大木では先住カラスと侵入アオサギのバトルが連日続いています。カラスの再三の攻撃にもかかわらず、ついに２組のつがいが巣作りを始めました。ここは共存ということで落ち着きそうです。（アオサギはサギのなかまでは日本で最大、羽根をひろげると、１６０センチとか）▼イラク・ファルージャでは米軍の無差別攻撃がおこなわれ、子供や、老人など約６００人が殺害され、ついにイラク市民が米軍の横暴に立ち上がりはじめました。どの様な政権のもとでも、自国のことはその国の民が決めるということでしょうか。